

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	Y I C 京都ビューティ専門学校
設置者名	学校法人京都中央学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生専門課程	美容科	夜・通信	15 単位	6 単位	
	ビューティスペシャリスト科	夜・通信	16 単位	6 単位	
商業実務専門課程	ブライダル科	夜・通信	22 単位	6 単位	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ上にて公表 WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/73ae3f02b717da5dc7d4e83bc3cc0010.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	Y I C 京都ビューティ専門学校
設置者名	学校法人京都中央学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上にて公表 WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/27d0150baa288bf3d28777ba73b76df0.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 代表取締役	平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日	経営方針や教育方針に対 する意見・助言等
非常勤	株式会社 代表取締役	平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日	経営方針や教育方針に対 する意見・助言等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	Y I C 京都ビューティ専門学校
設置者名	学校法人京都中央学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>新入生に対し、入学時に配布する学生便覧の学習の手引きに記載。</p> <p>1 教育課程(学則第8条関係)</p> <p>(1) 本校の専門課程において2年間で履修する科目、授業時間数は、教育課程(学則別表)のとおりとします。</p> <p>(2) 教育課程は、本校の「教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)〈P4〉」を踏まえ、編成しています。</p> <p>(3) 教育課程においては、必修科目、選択必修科目、選択科目を体系的に編成し、講義、実習等を適切に組み合わせた授業を開講いたします。</p> <p>(4) 本校においては、単位制を採用しており、必要な授業科目を履修し、学習の成果が評価されることにより、所定の単位を取得することとなり、単位数の合計が一定の要件を充たした場合に、卒業を認定します。</p> <p>≪教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)≫</p> <p>本校の教育理念、教育目標や求める人材像並びに称号付与の方針を達成するために、次のような方針で科目・プログラムを提供します。</p> <p>1. 美容・ビューティ・ブライダル業界の専門職として必要な知識と技術及び技能を身に付けるため、必要な科目とインターンシップを提供する。</p> <p>2. 主体的な学びを通して汎用的能力を育成し、社会人として求められる豊かな人間性を養成できるよう、プログラムを提供する。</p> <p>3. キャリア教育を通して、社会人基礎力と社会における使命感を育成するプログラムを提供する。</p> <p>4. 授業全般、学校行事を通し、コミュニケーション能力、豊かな人間性を養成する。</p> <p>また、教育課程の策定に当たり、学校法人京都中央学院は、設置する各学科に、専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置き、年2回以上委員会を開催し、カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項、各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項、教科書・教材の選定に関する事項などを審議・報告する。</p> <p>〈シラバスの作成と公表について〉</p> <p>各学科の教育課程に沿った科目ごとのシラバスの作成：2月末に決定</p> <p>公表：新年度開講にあわせてHP等に掲載および教育課程の一覧の配布</p>

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>ホームページ上にて公表（教育課程・シラバス） WEB アドレス：https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/ ホームページ上にて公表</p> <p>美容科 シラバス WEB アドレス：https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/</p> <p>ビューティスペシャリスト科 シラバス WEB アドレス：https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/</p> <p>ブライダル科 シラバス WEB アドレス：https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 新入生に対し、入学時に配布する学生便覧の「学習の手引き」に記載。</p> <p>7 成績評価（学則第 12 条関係）</p> <p>(1) 成績評価は、試験のほか、レポート作成、作品作成、実技テスト、資格試験合格、日常の学習態度など担当教員の指定する方法によって、総合的に評価します。なお、各各科目の評価方法については、シラバスに記載しています。</p> <p>(2) 成績評価の基準は、以下のとおりとします。</p> <p>評価点 成績 成績評価内容</p> <p>100～90 点 秀 (S) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている。</p> <p>89～80 点 優 (A) 到達目標を十分に達成している。</p> <p>79～70 点 良 (B) 到達目標を達成している。</p> <p>69～60 点 可 (C) 到達目標を最低限達成している。</p> <p>59 点以下 不可 (D) 到達目標を達成していない。</p> <p>— — 授業時数の出席率が 80%未満</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時数の出席率が 80%未満の者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を実施せず、当該科目については、再履修しなければならない。 ・ 学費及び教材費等未納者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を保留し、納入された時点で、評価を行う。 	
<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
新入生に対し、入学時に配布する学生便覧の学習の手引きに記載。

9 成績評価 (GPA 制度の導入)

- (1) 本校では、学生の自律的な学修の促進及び学生に対する学修指導等に活用することを目的として、GPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。
- (2) 各学生の履修科目の成績評価をグレード・ポイント (GP) に変換し、GP に当該科目の単位数を乗じて、その総和を履修総単位数で除した値をGPA とします。

評価	秀 (S)	優 (A)	良 (B)	可 (C)	不可 (D)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

GPA = 【履修科目の単位数×GP】の合計/履修した科目の総単位数

- (3) 在学中の全期間における学修の成果を示す指標として「累積GPA」を、当該学期における学修成果を示す指標として「学期 GPA」を算出します

10 単位認定 (学則第 12 条関係)

- (1) 単位認定会議において、次の基準を充たす者について、当該教科科目の履修単位を認定します。
 - ① 科目の単位認定には、成績評価において可 (C) 以上が必要。
 - ② 授業時数の出席率が 80%未満の者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を実施しない。
 - ③ 学費及び教材費等未納者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を保留し、納入された時点で、評価を行う。
- (2) 当該教科科目が再履修となった場合は、「再履修願」(P19) を提出する必要があります。

また、学習意欲の把握の為、授業アンケートや適宜個人面談等を実施。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

入学時に配布する学生便覧の学習の手引きに記載。

WEB アドレス : <https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/811275845dada425bc7603a303ede389.pdf>

※学生便覧 P11「学習の手引き」 9 成績評価 (GPA 制度の導入) を参照

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

《称号授与の方針（ディプロマ・ポリシー）》

本校の教育理念、教育目標や求める人材像に則り、所定の教育課程を修了し、次の項目を身に付けた学生に専門士の称号を付与します。

1. 美容・ビューティ・ブライダル業界の専門職として、必要な知識・技能・態度を身に付けていること
2. 自ら学び続ける能力とニーズに柔軟に対応できる能力を有していること
3. 必要なコミュニケーション能力を有し、他の職種と協働できる能力を有していること
4. 豊かな人間性と何事にも主体的に取り組むことができる能力を有していること

美容科

単位：90分×15週の座学（授業）または実習をもって1単位とする。ただし、校外学習などこれによりがたい場合は別途換算する。

科目履修（単位）認定の要件：80%以上の出席 および 期末試験 60点以上

卒業の要件：必修科目 48単位（1440時間）及び選択科目 20単位（600時間）以上 計 68単位（2040時間）以上の履修

ビューティスペシャリスト科

卒業要件資格

・共通：JNA日本ネイリスト検定3級 JMA日本メイクアップ技術検定3級 アロマセラピー検定2級 サービス接遇検定3級

・共通エステティック分野選択者：国際エステティック連盟（INFIA）ボディパスポート試験

・メイクアップアドバイザー分野選択者：JMA日本メイクアップ技術検定2級 メイクセラピー検定3級

・ネイリスト分野選択者：JMA日本ネイリスト検定2級 JNAジェルネイル検定初級

単位：90分×15週の座学（授業）または実習をもって1単位とする。ただし、校外学習などこれによりがたい場合は別途換算する。

卒業の要件：必修科目 23単位（690時間）及び選択必修科目と選択科目合わせて 39単位（1170時間）以上、計 62単位（1860時間）以上の履修

ブライダルホテル科

単位：90分×15週の座学（授業）または実習をもって1単位とする。ただし校外実習などこれによりがたい場合は別途決定する

科目履修（単位）認定の要件：80%以上の出席 および 期末試験 60点以上

卒業の要件：必修科目 62単位（1,860時間）の履修

卒業の認定に関する
方針の公表方法

入学時に配布する学生便覧の学習の手引きに記載。

WEBアドレス：<https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/811275845dada425bc7603a303ede389.pdf>

※学生便覧P.5「3つのポリシー」

《称号授与の方針（ディプロマ・ポリシー）》

P.8「学習の手引き」1 教育課程（学則第8条関係）

別表1 教育課程

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	Y I C 京都ビューティ専門学校
設置者名	学校法人京都中央学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/84559e3ca08eabdb7435225f661d419f.pdf ※事業報告 P. 22 貸借対照表
収支計算書又は損益計算書	WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/84559e3ca08eabdb7435225f661d419f.pdf ※P. 2～ 資金収支計算書、P. 13～ 事業活動収支計算書
財産目録	WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/84559e3ca08eabdb7435225f661d419f.pdf
事業報告書	WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/bf0c003538ff65b2ac4543f4a8d1134b.pdf
監事による監査報告（書）	WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生 専門課程	美容科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	68 単位時間/単位	34 単位 時間/単位	単位時間 /単位	49 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			83 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		130 人	人	4 人	19 人	23 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>＜教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）＞</p> <p>本校の教育理念、教育目標や求める人材像並びに称号付与の方針を達成するために、次のような方針で科目・プログラムを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備業界の専門職として必要な知識と技術及び技能を身に付けるため、必要な科目とインターンシップを提供する。 ・主体的な学びを通して汎用力を育成し、社会人として求められる豊かな人間性を養成できるよう、プログラムを提供する。 ・キャリア教育を通して、社会的基礎力と社会における使命感を育成するプログラムを提供する。 <p>〈シラバスの作成と公表について〉</p> <p>教育課程に沿った科目ごとのシラバスの作成：2月末に決定 公表：新年度開講にあわせてHP等に掲載および教育課程の一覧の配布</p> <p>成績評価の基準・方法</p>

(概要)

新入生に対し、入学時に配布する学生便覧の「学習の手引き」に記載。

7 成績評価 (学則第 12 条関係)

(1) 成績評価は、試験のほか、レポート作成、作品作成、実技テスト、資格試験合格、日常の学習態度など担当教員の指定する方法によって、総合的に評価します。なお、各科目の評価方法については、シラバスに記載しています。

(2) 成績評価の基準は、以下のとおりとします。

評価点 成績 成績評価内容

100～90 点 秀 (S) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている。

89～80 点 優 (A) 到達目標を十分に達成している。

79～70 点 良 (B) 到達目標を達成している。

69～60 点 可 (C) 到達目標を最低限達成している。

59 点以下 不可 (D) 到達目標を達成していない。

— 授業時数の出席率が 80%未満

・ 授業時数の出席率が 80%未満の者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を実施せず、当該科目については、再履修しなければならない。

・ 学費及び教材費等未納者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を保留し、納入された時点で、評価を行う。

10 単位認定 (学則第 12 条関係)

(1) 単位認定会議において、次の基準を充たす者について、当該教科科目の履修単位を認定します。

① 科目の単位認定には、成績評価において可 (C) 以上が必要。

② 授業時数の出席率が 80%未満の者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を実施しない。

③ 学費及び教材費等未納者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を保留し、納入された時点で、評価を行う。

(2) 当該教科科目が再履修となった場合は、「再履修願」(P19)を提出する必要があります。

また、学習意欲の把握の為、授業アンケートや適宜個人面談等を実施。

卒業・進級の認定基準

(概要)

〈称号授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 〉

本校の教育理念、教育目標や求める人材像に則り、所定の教育課程を修了し、次の項目を身に付けた学生に専門士の称号を付与します。

1. 美容・ビューティ・ブライダル業界の専門職として、必要な知識・技能・態度を身に付けていること
2. 自ら学び続ける能力とニーズに柔軟に対応できる能力を有していること
3. 必要なコミュニケーション能力を有し、他の職種と協働できる能力を有していること
4. 豊かな人間性と何事にも主体的に取り組むことができる能力を有していること

美容科

単位：90 分×15 週の座学 (授業) または実習をもって 1 単位とする。ただし、校外学習などこれによりがたい場合は別途換算する。

科目履修 (単位) 認定の要件：80%以上の出席 および 期末試験 60 点以上

卒業の要件：必修科目 48 単位 (1440 時間) 及び選択科目 20 単位 (600 時間) 以上 計 68 単位 (2040 時間) 以上の履修

学修支援等

(概要)

新入生に対し、入学時に配布する学生便覧の P. 17 「IV - 2 学生生活の手引 (学生相談)」に記載。

学生生活を過ごす中で、様々な問題に出会うことがあると思います。本校においては、充実した学生生活を送ることが出来るよう、相談・支援の体制に努めています。

1 オフィスアワー

講義での疑問点や関心のある問題への取り組み方などの勉学に関する事、そのほか学生生活に関する事

など相談のためにオフィスアワーを設けています。

2 総合支援課（相談室）
相談室では専門のカウンセラーが、学生のみなさんやその保証人の相談に応じています。

3 YIC グループ相談・苦情
〈相談窓口〉の案内を記載。

2022 年度学生便覧 WEB アドレス：<https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/811275845dada425bc7603a303ede389.pdf>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
62 人 (100%)	人 (%)	58 人 (93.5%)	4 人 (6.5%)

(主な就職、業界等)

株式会社 ORESS、株式会社オーシャントキョーグループ、Befine 株式会社、CMA mash 株式会社、リント株式会社、株式会社 かいのホールディングス、株式会社 anuenu、株式会社 ARS、株式会社 AVANCE、ホールディングス、株式会社 BAY PARTNERS、株式会社 box、株式会社 CRANZ、株式会社 Dcrews、株式会社 FEXIA、株式会社 FRO、株式会社 L&B ホールディングス、株式会社 navel、株式会社 OCEAN、株式会社 On、株式会社 unlimitedplans、株式会社エクセルビルコ EXCEL、株式会社サンロード、株式会社ステレオブライダル、株式会社ニューヨーク・ニューヨーク、株式会社ハピネス、株式会社ヘアメイクポリッシュ、株式会社モードケイズ、株式会社リー、株式会社早瀬、有限会社アイムインターナショナル、有限会社エイト、有限会社ラ・リヴィエール、有限会社ルックフォアネットワーク、有限会社レガロ、No. R、S. SWEET、TIDEHAIR、FLOPNIK

(就職指導内容)

〈キャリア支援〉
本校では総合支援課の職員をはじめ教職員の多くが認定キャリア・サポーターの資格を有しており、教員と総合支援課の専任スタッフが密に連携しながらサポートするなど、就職指導に万全の体制を整えています。

(主な学修成果（資格・検定等）)

美容師国家資格、JMA 日本メイクアップ技術検定試験 3 級、JNEC ネイリスト技能検定試験 3 級、資生堂ヘッドスパディプロマ、日本パーソナルカラリスト協会パーソナルカラリスト検定 3・2 級、一般社団法人 日本ヘアケアマイスター協会ヘアケアマイスター(プライマリーコース)ディプロマ、NPO 法人日本ヘアカラー協会 JHCA ヘアカラリスト検定 シングルスター、NPO 法人日本ビューティ・コーディネーター協会ビューティコーディネーター2 級

〈専攻で取得〉
NPO 法人 日本ヘアカラー協会 JHCA ヘアカラリスト検定 ダブルスター(※ヘアデザイン専攻)、JMA 日本メイクアップ技術検定試験 2 級(※メイクブライダル専攻)、新井会ジュニアセットリストディプロマ(※メイクブライダル専攻)

美容師国家資格：受験人数 62 人/合格人数 59 名(95.2%)
JHCA ヘアカラリスト検定 シングルスター：受験人数 人/合格人数 名(100%)
日本メイクアップ技術検定試験 2 級：受験人数 27 人/合格人数 24 名(88.9%)
日本メイクアップ技術検定試験 3 級：受験人数 80 人/合格人数 78 名(97.5%)
JNEC ネイリスト技能検定試験 3 級：受験人数 79 人/合格人数 74 名(93.7%)

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

148 人	16 人	10.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更（進学）、進路変更（就職）、学習意欲低下、体調不良、金銭的理由他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前学習教材および実力テストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み。クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。hyper-QU アンケートの実施・分析による学生面談の実施。スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生 専門課程	ビューティスペシャリスト 科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	68 単位時間/単位	59 単位 時間/単位	単位時間 /単位	78 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			137 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		78 人	人	3 人	24 人	27 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ＜教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）＞ 本校の教育理念、教育目標や求める人材像並びに称号付与の方針を達成するために、次のような方針で科目・プログラムを提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備業界の専門職として必要な知識と技術及び技能を身に付けるため、必要な科目とインターンシップを提供する。 ・主体的な学びを通して汎用力を育成し、社会人として求められる豊かな人間性を養成できるよう、プログラムを提供する。 ・キャリア教育を通して、社会的基礎力と社会における使命感を育成するプログラムを提供する。 〈シラバスの作成と公表について〉 教育課程に沿った科目ごとのシラバスの作成：2月末に決定 公表：新年度開講にあわせてHP等に掲載および教育課程の一覧の配布

成績評価の基準・方法
(概要) 新入生に対し、入学時に配布する学生便覧の「学習の手引き」に記載。 7 成績評価（学則第 12 条関係） (1) 成績評価は、試験のほか、レポート作成、作品作成、実技テスト、資格試験合格、日常の学習態度など担当教員の指定する方法によって、総合的に評価します。なお、各科目の評価方法については、シラバスに記載しています。 (2) 成績評価の基準は、以下のとおりとします。 評価点 成績 成績評価内容 100～90 点 秀 (S) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている。 89～80 点 優 (A) 到達目標を十分に達成している。 79～70 点 良 (B) 到達目標を達成している。 69～60 点 可 (C) 到達目標を最低限達成している。 59 点以下 不可 (D) 到達目標を達成していない。 — — 授業時数の出席率が 80%未満

- ・授業時数の出席率が80%未満の者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を実施せず、当該科目については、再履修しなければならない。
- ・学費及び教材費等未納者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を保留し、納入された時点で、評価を行う。

10 単位認定（学則第12条関係）

- (1) 単位認定会議において、次の基準を充たす者について、当該教科科目の履修単位を認定します。
- ① 科目の単位認定には、成績評価において可（C）以上が必要。
 - ② 授業時数の出席率が80%未満の者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を実施しない。
 - ③ 学費及び教材費等未納者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を保留し、納入された時点で、評価を行う。
- (2) 当該教科科目が再履修となった場合は、「再履修願」（P19）を提出する必要があります。

また、学習意欲の把握の為、授業アンケートや適宜個人面談等を実施。

卒業・進級の認定基準

（概要）

＜称号授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

本校の教育理念、教育目標や求める人材像に則り、所定の教育課程を修了し、次の項目を身に付けた学生に専門士の称号を付与します。

1. 美容・ビューティ・ブライダル業界の専門職として、必要な知識・技能・態度を身に付けていること
2. 自ら学び続ける能力とニーズに柔軟に対応できる能力を有していること
3. 必要なコミュニケーション能力を有し、他の職種と協働できる能力を有していること
4. 豊かな人間性と何事にも主体的に取り組むことができる能力を有していること

ビューティスペシャリスト科

卒業要件資格

- ・共通：JNA日本ネイリスト検定3級 JMA日本メイクアップ技術検定3級 アロマセラピー検定2級 サービス接遇検定3級
- ・共通エステティック分野選択者：国際エステティック連盟（INFIA）ボディパスポート試験
- ・メイクアップアドバイザー分野選択者：JMA日本メイクアップ技術検定2級 メイクセラピー検定3級
- ・ネイリスト分野選択者：JMA日本ネイリスト検定2級 JNAジェルネイル検定初級

単位：90分×15週の座学（授業）または実習をもって1単位とする。ただし、校外学習などこれによりがたい場合は別途換算する。

卒業の要件：必修科目23単位（690時間）及び選択必修科目と選択科目合わせて39単位（1170時間）以上、計62単位（1860時間）以上の履修

学修支援等

（概要）

新入生に対し、入学時に配布する学生便覧のP.17「IV-2 学生生活の手引（学生相談）」に記載。学生生活を過ごす中で、様々な問題に出会うことがあると思います。本校においては、充実した学生生活を送ることが出来るよう、相談・支援の体制に努めています。

- 1 オフィスアワー
講義での疑問点や関心のある問題への取り組み方などの勉学に関する事、そのほか学生生活に関する事など相談事のためにオフィスアワーを設けています。
- 2 総合支援課（相談室）
相談室では専門のコウンセラーが、学生のみなさんやその保証人の相談に応じています。
- 3 YIC グループ相談・苦情
＜相談窓口＞の案内を記載。

2022年度学生便覧WEBアドレス：<https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/811275845dada425bc7603a303ede389.pdf>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28人 (100%)	人 (%)	27人 (96.4%)	1人 (3.6%)
(主な就職、業界等) ELC ジャパン株式会社、株式会社阪急阪神百貨店、株式会社ポーラ、TBC グループ株式会社、株式会社Luna、株式会社きき、株式会社ザ・フォウルビ、株式会社シャンヴル・スフレ、株式会社スギ薬局、株式会社バイオテクノロジービューティ、株式会社ビューティサポート、株式会社マッシュホールディングス、株式会社ミュゼプラチナム、株式会社ライフビューティ、合同会 STARJaime、Acare、フェアリーテイルエクセレント、エピネ			
(就職指導内容) 〈キャリア支援〉 本校では総合支援課の職員をはじめ教職員の多くが認定キャリア・サポーターの資格を有しており、教員と総合支援課の専任スタッフが密に連携しながらサポートするなど、就職指導に万全の体制を整えています。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 国際エステティック連盟 INFA ボディパスポート試験およびフェイシャル試験、一般社団法人 JMA 日本メイクアップ技術検定試験 1 級・2 級・3 級、一般社団法人メイクセラピストジャパン メイクセラピー検定 1 級・2 級・3 級、公益財団法人日本ネイリスト検定試験センター ネイリスト技能検定 1 級・2 級・3 級、NPO 法人日本ネイリスト協会 JNA ジェルネイル技能検定試験上級・中級・下級、一般社団法人日本カラリスト協会 パーソナルカラリスト検定 3 級 一般社団法人 JMA 日本メイクアップ技術検定試験 1 級：受験人数 19 人/合格人数 16 人 (84.2%) 一般社団法人 JMA 日本メイクアップ技術検定試験 2 級：受験人数 15 人/合格人数 15 人 (91.9%) 国際エステティック連盟 INFA フェイシャル試験：受験人数 5 人/合格人数 4 人 (100%) 国際エステティック連盟 INFA ボディパスポート試験：受験人数 5 人/合格人数 5 人 (100%) JNEC ネイリスト技能検定 1 級：受験人数 5 人/合格人数 5 人 (100%) JNEC ネイリスト技能検定 2 級：受験人数 5 人/合格人数 5 人 (100%) JNEC ネイリスト技能検定 3 級：受験人数 37 人/合格人数 36 人 (97.2%) 一般社団法人メイクセラピストジャパン メイクセラピー検定 2 級：受験人数 20 人/合格人数 20 人 (100%)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
75 人	16 人	21.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更 (就職)、学習意欲低下、体調不良、持病の悪化、家庭環境の変化、金銭的理由、他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前学習教材および実カテストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み。クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。hyper-QU アンケートの実施・分析による学生面談の実施。スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	ブライダル科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	30 単位 時間/単位	単位時間 /単位	35 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			65 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	22人	人	3人	14人	17人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>＜教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）＞</p> <p>本校の教育理念、教育目標や求める人材像並びに称号付与の方針を達成するために、次のような方針で科目・プログラムを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備業界の専門職として必要な知識と技術及び技能を身に付けるため、必要な科目とインターンシップを提供する。 ・主体的な学びを通して汎用力を育成し、社会人として求められる豊かな人間性を養成できるように、プログラムを提供する。 ・キャリア教育を通して、社会的基礎力と社会における使命感を育成するプログラムを提供する。 <p>〈シラバスの作成と公表について〉</p> <p>教育課程に沿った科目ごとのシラバスの作成：2月末に決定 公表：新年度開講にあわせてHP等に掲載および教育課程の一覧の配布</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>新入生に対し、入学時に配布する学生便覧の「学習の手引き」に記載。</p> <p>7 成績評価（学則第 12 条関係）</p> <p>(1) 成績評価は、試験のほか、レポート作成、作品作成、実技テスト、資格試験合格、日常の学習態度など担当教員の指定する方法によって、総合的に評価します。なお、各各科目の評価方法については、シラバスに記載しています。</p> <p>(2) 成績評価の基準は、以下のとおりとします。</p> <p>評価点 成績 成績評価内容</p> <p>100～90 点 秀 (S) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている。</p> <p>89～80 点 優 (A) 到達目標を十分に達成している。</p> <p>79～70 点 良 (B) 到達目標を達成している。</p> <p>69～60 点 可 (C) 到達目標を最低限達成している。</p> <p>59 点以下 不可 (D) 到達目標を達成していない。</p> <p>— — 授業時数の出席率が 80%未満</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時数の出席率が 80%未満の者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を実施せず、当該科目については、再履修しなければならない。 ・学費及び教材費等未納者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を保留し、納入された時点で、評価を行う。 <p>10 単位認定（学則第 12 条関係）</p> <p>(1) 単位認定会議において、次の基準を充たす者について、当該教科科目の履修単位を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 科目の単位認定には、成績評価において可 (C) 以上が必要。 ② 授業時数の出席率が 80%未満の者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を実施しない。 ③ 学費及び教材費等未納者については、評価点の如何にかかわらず、成績評価を保留し、納入された時点で、評価を行う。

(2) 当該教科科目が再履修となった場合は、「再履修願」(P19)を提出する必要があります。

また、学習意欲の把握の為、授業アンケートや適宜個人面談等を実施。

卒業・進級の認定基準

(概要)

《称号授与の方針(ディプロマ・ポリシー)》

本校の教育理念、教育目標や求める人材像に則り、所定の教育課程を修了し、次の項目を身に付けた学生に専門士の称号を付与します。

1. 美容・ビューティ・ブライダル業界の専門職として、必要な知識・技能・態度を身に付けていること
2. 自ら学び続ける能力とニーズに柔軟に対応できる能力を有していること
3. 必要なコミュニケーション能力を有し、他の職種と協働できる能力を有していること
4. 豊かな人間性と何事にも主体的に取り組むことができる能力を有していること

ブライダルホテル科
 単位：90分×15週の座学(授業)または実習をもって1単位とする。ただし校外実習などこれによりがたい場合は別途決定する
 科目履修(単位)認定の要件：80%以上の出席 および 期末試験 60点以上
 卒業の要件：必修科目 62単位(1,860時間)の履修

学修支援等

(概要)

新入生に対し、入学時に配布する学生便覧のP.17「IV-2 学生生活の手引(学生相談)」に記載。学生生活を過ごす中で、様々な問題に出会うことがあると思います。本校においては、充実した学生生活を送ることが出来るよう、相談・支援の体制に努めています。

- 1 オフィスアワー
 講義での疑問点や関心のある問題への取り組み方などの勉学に関する事、そのほか学生生活に関する事など相談のためにオフィスアワーを設けています。
- 2 総合支援課(相談室)
 相談室では専門のカウンセラーが、学生のみなさんやその保証人の相談に応じています。
- 3 YIC グループ相談・苦情
 《相談窓口》の案内を記載。

2022年度学生便覧WEBアドレス：<https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/811275845dada425bc7603a303ede389.pdf>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	10人 (62.5%)	6人 (37.5%)

(主な就職、業界等)

株式会社京都ホテル、株式会社ホテル日航プリンセス京都、アンシェルデ・マリアージュ、マリアージュ彦根ウェディング株式会社、株式会社 lyrics、株式会社アルファフローリスト、株式会社エフ・ジェイホテルズ、株式会社ホテルはまのゆ、株式会社緑水亭、玉造温泉白石家、有限会社せくみ屋、株式会社 beegle、株式会社上原フォートスタジオ

(就職指導内容)

《キャリア支援》

本校では総合支援課の職員をはじめ教職員の多くが認定キャリア・サポーターの資格を有しており、教員と総合支援課の専任スタッフが密に連携しながらサポートするなど、就職指導に万全の体制を整えています。

(主な学修成果(資格・検定等))

国家検定ブライダルコーディネイト3級技能士資格、全米ブライダルコンサルティング協会ブライダルプランナー検定1級・2級、全米ブライダルコンサルティング協会ドレススタイリスト検定、ブライダルフラワーコーディネーター検定3級、サービス接客検定準1級・2級

2021年度ABC協会ブライダルプランナー検定2級：受験人数12人/合格人数12人(100.0%)

2021年度ABC協会ドレススタイリスト検定：受験人数11人/合格人数10人(90.9%)

2021年度ブライダルコーディネイト3級技能士資格：受験人数11人/合格人数10人(90.9%)

2021年度ブライダルコーディネイト3級技能士資格：受験人数11人/合格人数10人(90.9%)

2021年度秘書検定3級：受験人数12人/合格人数11人(91.6%)

2021年度秘書検定2級：受験人数12人/合格人数10人(83.3%)

2021年度ブライダルフラワーコーディネーター3級：受験人数11人/合格人数11人(100.0%)

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	1人	3.4%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前学習教材および実力テストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み。クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。hyper-QU アンケートの実施・分析による学生面談の実施。スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
美容科	150,000 円	800,000 円	670,000 円	教材補助活動費 (預り金初年度) : ¥460,000、施設維持費 : ¥210,000、休学 中在籍料 : ¥10,000
ビューティ スペシャリ スト科	150,000 円	800,000 円	627,000 円	教材補助活動費 (預り金初年度) : ¥417,000、施設維持費 : ¥210,000、休学 中在籍料 : ¥10,000
ブライダル 科	150,000 円	800,000 円	562,000 円	教材補助活動費 (預り金初年度) : ¥352,000、施設維持費 : ¥210,000、休学 中在籍料 : ¥10,000
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 2020年度自己点検・自己評価 WEB アドレス : https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 専修学校における学校評価ガイドラインの主なポイント 〈目的〉 ○学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善。 ○生徒・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくり推進。 学校法人京都中央学院は、設置する専門学校各校のより実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、各校の自己点検評価の結果を評価することを目的とした学校関係者評価委員会を設置。学校関係者評価委員会は、各校で行われた教育活動及び学校運営の状況についての自己点検評価の結果を踏まえた学校評価を行い、その結果を校長に報告する。 〈自己点検評価項目〉 ・教育理念、目標 ・学校運営 ・教育活動 ・学修成果 ・学生支援 ・教育環境 ・学生の受入れ募集 ・財務 ・法令等の遵守 ・社会貢献、地域貢献 ・国際交流 学校関係者評価委員会を構成する委員は3名以上とし、学校法人京都中央学院各校の教職員以外の者で次に掲げる者のうちから、各校校長もしくは担当理事が委嘱する。 (1) 保護者 (2) 学校法人京都中央学院各校卒業生 (3) 地域住民

(4) 地元企業関係者 (5) 高等学校関係者 (6) その他教育に関する有識者 ※学校法人京都中央学院 学校関係者評価委員会規程		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ガモウ関西	令和3年4月1日～令和5年3月31日	その他教育に関する有識者
滋賀県美容業生活衛生同業組合	令和3年4月1日～令和5年3月31日	その他教育に関する有識者
資生堂プロフェッショナル株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日	その他教育に関する有識者
株式会社ロイヤルホテル	令和3年4月1日～令和5年3月31日	地元企業関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 2021年度学校関係者評価委員会報告 WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校ホームページ WEB アドレス https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/ 情報公開ページ WEB アドレス： https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	Y I C京都ビューティ専門学校
設置者名	学校法人京都中央学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		51人	48人	51人
内 訳	第Ⅰ区分	33人	34人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				51人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。